



子どもと一緒に育つ今を楽しもう！

南郷小学校の体育館に響く元気な声。そこに一生懸命にドッジボールの練習をする子どもたちの姿。そして真剣に子どもたちを見つめる指導者の皆さん。南郷キューピットドッジボール部(※)の取り組みを通じて、より良い子育てについて考えてみたいと思います。



子どもたちの笑顔のために

ドッジボールを始めたころの子どもたちは遊び感覚で、覇気がなく、なかなか試合に勝てなかったそうです。「なんとか勝たせてやりたい。勝って喜ばせてやりたい」と、指導者たちは他のチームの練習会場で足を運び練習方法を教わったそうで



一生懸命に練習する子どもたち



「しかつてくれる」「認めてくれる」

チームの子どもたちに聞きました。
時田正晶さん(6年生)



みんなと協力してやり遂げる達成感があつて楽しいです。監督たちは自分たちで考えるように指導してく



れます。自分で考えた作戦をみんなに伝えて、うまくいったらとてもうれしいです。監督たちは、いいプレーをしたときはほめてくれます。キャプテンの植上凌正さん(6年生)

監督たちはしかつてくれる人です。しかつてくれる人がいるから良い練習ができると思います。僕たちにもうまくなつてほしい、強くなつてほしいという監督たちの気持ちが伝わってきます。だから、みんなが強くなつて自分たちが卒団してもがんばっていきけるチームにしたいです。みんなもそう思っていると思います。

※南郷キューピットドッジボール部

南郷キューピットすこやかネット(南郷中学校区地域教育協議会)ドッジボール部。平成21年6月に結成された日本ドッジボール協会の登録団体。月7回南郷小学校と氷野小学校で練習を行っており、現在、7歳から中学生まで、約50人の部員で活動している。

監督の稲崎悟さん、コーチの大塚英二さん、マネージャーの永田早苗さんたち指導者を中心に、保護者みんなで子どもたちのがんばりを支える。



先輩たちの思いがこもったボール

子どもの「やりたい」を大切に

監督の稲崎さんに聞きました。

―チームを立ち上げたきっかけは？

太子田の子ども会で4年間ドッジボールチームの監督をしていました。そのときの子どもたちの楽しむ姿に「もつといるんな子どもたちにこの楽しさを教えたい」と思ったのがきっかけです。

―立ち上げのときに考えたことは？

三つあります。一つ目は「あいさつができる子に」、二つ目に「人の話が聞ける子に」、三つ目に「団体競技を通して、思いやりのある子に」です。

―子どもたちのかかわりで気を付けていることは？

しかるときは本気でしかる。いときはちゃんとはめることです。子どもたちは、

礼儀正しくなりあ
いさつができるよ
うになり、また、
自分たちで考えて
動くことができます
ようになりました。
―子育てにがんば
る人へ

子どもの「や
りたい」気持ち
を大切にしてく
ださい。そして、

できるなら一緒に取り組み、感情を共有する中で、「あなたのことを見ているよ」「大事に思っているよ」と伝えてください。

素直にほめて、ハグ

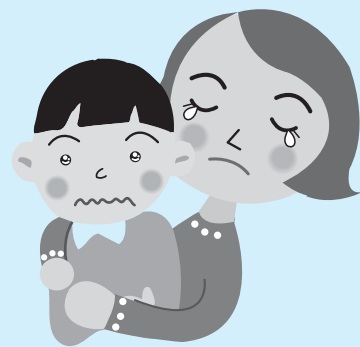
監督の話聞いてる際、市内のある小学校の先生の話を思い出しました。その先生も「しかるときは本気でしかる、ささいなことでもほめる」と言っていました。その先生からお話しいただいたエピソードです。クラスの子どもががんばっていたことを伝えようと、その子どもの家に電話したときのことです。お母さんは「また何かしましたか？」と言いました。なかなか子どものことを肯定的に見ることできないお母さんに、「○○くん、がんばってたよ。ぎゅつとしてあげて」と伝えました。その夜、お母さんからこんなメール（右下）が届きました。

愛情は「時間」ではなく「濃さ」

この先生が4月の学級懇談で保護者に必ず言っていることは「まずほめてあげよう！」だそうです。愛情は「時間」ではなく「濃さ」。「今、子どもとかかわれる時間を大切に、子育てを楽しもう！」とも言っていました。

先ほどはお電話ありがとうございました。先生に言われたとおりに「ほめて、ぎゅつとしてあげて」を今日はしてあげようと思ったんですが…。毎日怒ってばかりなので、どうやってほめたらよいか悩みました。結果、わたしは涙をこらえ、子どもに顔をみられないように後ろからぎゅつと抱きしめて「よーがんばったね！」としか言っておげられませんでした。子どもはすごくうれしかったのか、目を赤くして何回もこすって、泣いていました。

こんな愛情のかけ方をしてあげていなかったことをすごく反省して涙が止まりません。今まで、できて当たり前と思ってほめたこともなく、できないならきつい言葉を浴びせていました。今日の子どもの涙で愛情が不足していたことが分かり、つらかったです。教えていただき本当にありがとうございました。これからは怒るだけでなく、素直にほめてハグしていきます！



子どもをひとつの人格と見て尊重し、大きな愛情を持って育てていくとき、子どもはその愛情を受けて伸び伸びと成長していきます。そして子どもと共に成長を喜び合うことが、「子育てを楽しむ」ということではないでしょうか。厳しい社会情勢の中での子育ては大変苦労が多いですが、その中でどう子どもと向き合い、育てていくのかあらためて考えてみませんか。

「人権のひろば」に対するご意見、ご感想を秘書広報課までお寄せください。